

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	120	新宿駅周辺地区の交通環境整備推進					
章	4	にぎわいと魅力あふれるまち					
大項目	01	魅力あふれるまちづくり					
施策	01	魅力ある都市空間づくり					
事業内容							
目的	新宿駅周辺地区を回遊性の高い魅力ある都市空間とするために、歩行者空間の整備を促進するとともに、都市景観に配慮したまちなみの形成を図ります。						
対象・手段	対象：新宿駅周辺地区 手段：東西自由通路整備と連携した東口駅前広場の整備や、地下通路の整備等のそれぞれの計画について事業者間の調整を行ない誘導していきます。						
成果(事業が意図する成果)							
新宿駅周辺地区の整備を推進することにより、歩行者の回遊性の確保、交通混雑の解消、安全性の向上、市街地の活性化等が図られます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
新宿駅東西自由通路の都市計画決定	基礎調査を行って50%、都市計画決定をして100%	(平成19)	年度に	(100%)	の水準達成		
靖国通り地下通路延伸の都市計画決定	準備会を立ち上げて10%、都市計画決定をして100%	(平成19)	年度に	(100%)	の水準達成		
		()	年度に	()	の水準達成		
成果の達成状況							
	単位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備考	
事業成果指標	目標値1	%	0.00	0.00	100.00	100.00	
	実績1	%	0.00	0.00	50.00	60.00	
	= /	%	0.00	0.00	50.00	60.00	
	目標値2	%	0.00	0.00	100.00	100.00	
	実績2	%	0.00	0.00	10.00	20.00	
	= /	%	0.00	0.00	10.00	20.00	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	新宿駅東西自由通路の整備計画、費用負担等について、JR、東京都等と協議を行いました。靖国通り地下通路延伸に向けた検討準備会を、地元商店街振興組合、沿道地権者、新宿地下駐車場(株)、東京地下鉄(株)等をメンバーとして立ち上げました。						
平成18年度	東西自由通路及び駅前広場の整備については、「第3回新宿駅周辺整備計画検討委員会・第4回幹事会」を開催し、幅員25mでの早期実現を確認しました。また、委員会では、自由通路を都市計画として位置づけることについての提案と、事業のスケジュール等の検討を行いました。靖国通り地下歩行者道の延伸については、歩行者交通量調査等の具体的な現況調査を、東京都等関係者と協働して進めました。						

部名称		都市計画部		課名称		都市計画課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	0	0	0	0	
	人件費	千円	0	0	6,670	6,624	
	事務費	千円	0	0	70	75	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	0	0	6,740	6,699	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	0	0	6,740	6,699	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	0	6,740	6,699	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	0.00	0.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.00	0.80	0.80	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>新宿駅東口地区は、新宿駅南口基盤整備事業や地下鉄副都心線事業など都市のインフラ整備が進行しつつあります。その中で東口周辺のまちづくりを推進するためには、地元から要望の強い靖国通り地下通路延伸による回遊性の確保等について、関係機関と調整していく必要があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	東西自由通路の整備については、新宿駅周辺整備計画検討委員会を開催し、幅員25mでの早期実現を確認しました。靖国通り地下歩行者道の延伸については、具体的な現況調査を、東京都等関係者で協働して進めました。両事業とも、ほぼ計画通りです。				
	効率性	2	新宿跨線橋架け替え工事や地下鉄副都心線の関係事業者と総合的な意見調整を行うことは、効率的です。				
	実施の成果	2	東西自由通路は、JR等関係者間で、整備計画幅員、事業スケジュール等について、共通認識を持ちました。また、靖国通り地下通路延伸については、東京都等関係者で具体的な調査に着手しました。都市計画決定に向け、着実に検討が進んでいます。				
	行政の関与	3	新宿駅は、全国的にも利用者の多い主要なターミナル駅であり、関係する多くの事業者の調整を図るため、地元自治体として区が関与する必要があります。				
	妥当性	2	新宿駅周辺地区を回遊性の高い魅力ある都市空間にするために、地元や関係機関相互の調整を行ない、新宿駅東西自由通路の整備や地下歩行者通路の整備を推進していくことは、妥当です。				
	施策寄与度	3	新宿駅周辺地区の整備を推進することにより、歩行者の回遊性の確保や交通混雑の解消、市街地の活性化等を図ることは、東口の都市空間の快適性を向上させるために大いに寄与します。				
総合評価	新宿駅東西自由通路については、新宿駅周辺整備計画検討委員会において、幅員25mでの早期実現を確認しました。また、委員会では、19年度の都市計画決定に向け、自由通路を都市計画として位置づけることについての提案を行いました。靖国通り地下通路延伸については、東京都等関係者で具体的な調査に着手しました。新宿駅周辺の回遊性向上に向け、両事業が着実に進捗していることは評価できます。						B 過年度評価 17年度 B 16年度 15年度 14年度
	改革方針	新宿駅東口地区は、新宿の顔として栄え、新宿の商業活動をリードしてきた土地ですが、まちの更新が進まず古びた印象を免れません。ここに、再興の息吹を導入することが求められており、そのテーマは歩行者優先の施策です。その第一に位置づけられるものが新宿駅東西自由通路の整備です。自由通路の整備は、まちの東西の分断を解消するものであり、地域の活性化にとっても重要なものです。また、靖国通り地下通路の延伸については、地下歩行者ネットワークを構築し、東口周辺の歩行者の回遊性向上を図るために必要不可欠であるので、整備を実現していきます。今後は自由通路から駅前広場、そしてまちへの円滑なアクセス、さらにまちの更新などを視野に入れた一体的な計画の策定を行っていきます。					